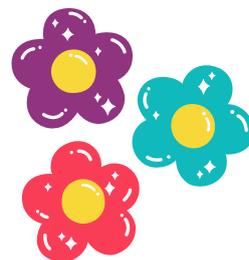


ももでは、10代から20代前半の子どもを中心に、誰もが自分の未来希望を持つことができる社会を目指して、居場所・教育・暮らし・相談の4つの事業に取り組んでいます。



～今回は保護者の方から、お話をお聞きしました～

🌸 ももと関わるきっかけは？

子どもが、学校に行きにくくなったことがありました。もともと、「子どもには家・学校以外に第3の居場所が必要」と思っていたのですが、その時、子どもには、それがなかったのです。そこで、ネットで「居場所」を探しました。複数の居場所があったのですが、土曜日に開催しているのが「もも」だけで、参加させてもらうことになりました。（当時、土曜の午後に居場所をしていたのです）



🌸 「もも」の印象は？

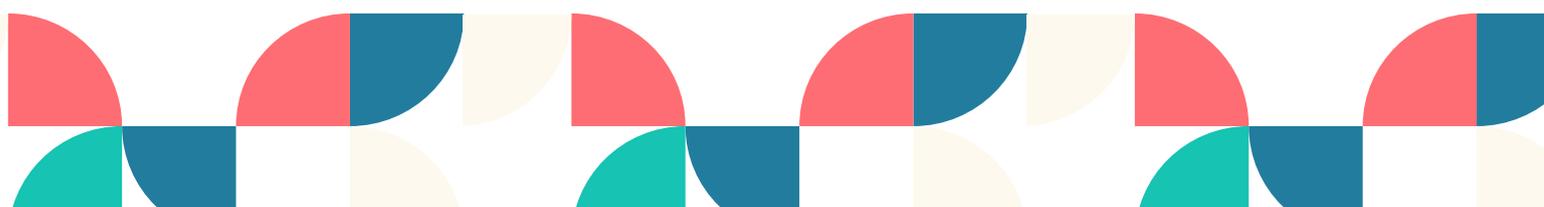
陽だまりみたいな場所。あったかくて、そこにいるだけで落ち着けて、癒される。

えりこ先生は、私より年下だけど、「ビッグママ」。温かく包み込んでくれる。たかひろ先生は…今もって「謎」の存在。でも、子どものためなら、「ぽちっ」と、必要なものをそろえてくれる「あったかい人」。



🌸 「もも」を利用し始めて、子どもに変化はありましたか？

大きく子どもが「こう変わった」というのは、難しいです。ももを利用し始めて3年半後に、本格的な不登校になりました。不登校の間、電車を乗り継いで、ももに週4で通っていました。まさに、ヘビーユーザー（笑）。そこに、自分の居場所があったおかげで、子どもの心は救われたと思います。今は、学校に行っていますが、長期休暇などには、せっせと「もも」に通っています。そこで出会った、スタッフさんや子どもたちが、財産になっているように思います。



🌸 子どもが不登校になった時の親の気持ちは？

うちは他の子もいろいろあって、悩んで、奈落の底に落ちたような気持ちや、イライラ、何とも言えない葛藤も経験していました。なので、この子が不登校になっても、「こんなこともあるか」と。子どもが辛いのなら、学校に無理に行かなくてもいいと、思っていました。それに、すでに「もも」に出会っていたので、親にも頼れる場所があったことも、支えになっていたと思います。子どもは「もも」に通っていたので、それでいいかと思っていました。でも、高校進学に当たっては大きな壁があり、複雑な気持ちになりました。



🌸 今、悩んでいる保護者の方にひとこと

子どもが、普通に成長して、普通に学校に行って…が、普通と思っていた。そうあって欲しいと願っていた。それが、ひっくり返されて、親も戸惑うし、不安だし、悩むし…でも、親が解決してあげることにはできない。親として、何ができるか、何をしたら子どもの助けになるのか、それも分からない。暗いトンネルの中において、出口が見えない。親として将来のことも考えるので、心配が募ったり、ネガティブな感情が渦巻いたり…。普通なんてない。あるのは、「そのままでいい」子どもだけ…のはずが、なかなかそう思えない。

「もも」さんをお願いして、「保護者の居場所」でお話したいですね。



🌸 これを読んでいる子どもたちへ

親は確かに、しんどい思いをしているかもしれませんが、でも、それはあなたが悪いわけではありません。あなたが「普通」に合わせる必要はありません。あなたはそのままでもいいし、自分のペースで歩いていけばいいのです。あなたを真剣に思うから、あなたを大事に思うから、親は悩むのです。あなたの力になりたいし、寄り添いたいけど、その方法が分からないのです。

